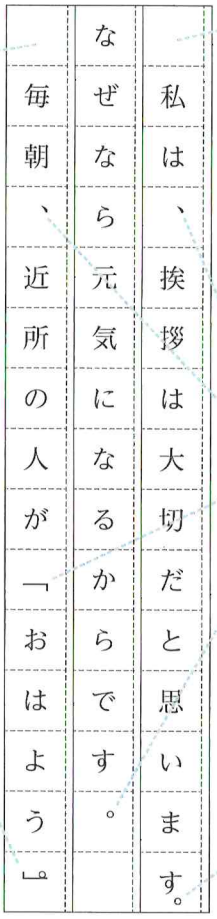
30 作文

学習目標
●正しい形式で作文を書けるようになろう。
●設問の条件を正しく捉え、構成を工夫しながら自分の考えを適切に書くことができるようになろう。

要点のまとめ

作文の基礎

●原稿用紙の使い方の基本



●作文の推敲

- 文体を、**常体**（文末が「……だ」「……である」または〈言い切り〉の形）か、**敬体**（「……です」「……ます」）のどちらかに統一して書く。
- 文法的に誤りがないか確認する。

形式

主語・述語の対応、修飾語の係り方、副詞の呼応、助詞の使い方など

- 漢字や仮名遣い、送り仮名に誤りがないか確認する。

※漢字や送り仮名に自信がもてないときは、辞書などで調べる。

- 設問文中や、設問文の後にある「条件」や「注意」を必ず守る。

〈よくある条件〉形式…字数（行数）、段落数、書き出しの言葉
内容…自分の体験を書く、賛成（反対）意見を述べる

入試作文の出題形式

●意見発表型（ディベート型）

あるテーマについて、賛成か反対かといった立場を決め、その理由や根拠を書く。あるいは、複数の案から一つを選び、選んだ理由や根拠を書く。

テーマ例 制服は必要か、遠足の行き先はどこがよいか、スマホの使い方　など

チェック 説得力のある理由・根拠を明確に書く力をみるための課題である。

●資料活用型

グラフ・写真・イラスト・表などの資料から読み取ったことをもとに意見を書く。二つ以上の資料を組み合わせて読み取る場合もある。

資料例 人口推移の折れ線グラフ、新聞記事、ポスター　など

チェック 資料の分析力、着眼点をみるための課題である。

●課題文読み取り型

論説文や話し合いの様子などの短い文章を読み、その内容に対する意見や、文章の話題についての体験を書く。

文章例 新聞の投書、委員会や学級会の様子　など

チェック 文章の読解力・要約力も求められる。

●テーマ型

あるテーマについて、思ったことや考えたことなどを書く。

テーマ例 将来の夢、私の家族、友情、国際交流、読書　など

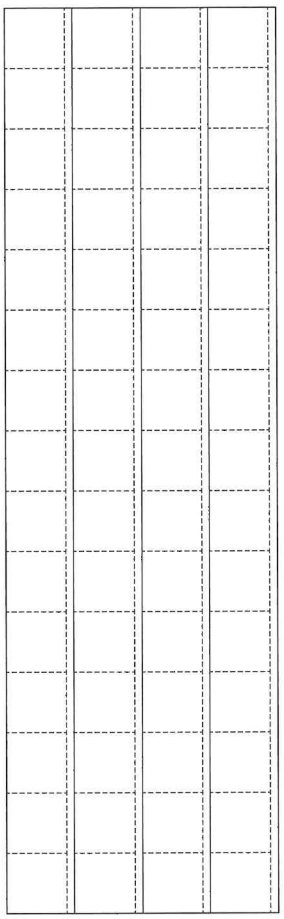
チェック 抽象的なテーマが多いので、自分の体験などの具体例を挙げて、自分の考えをわかりやすく書く。

※これらの型を、二つ以上組み合わせた形式で出題される場合もある。

確認問題

1　原稿用紙の使い方　次の文章を、原稿用紙の正しい使い方にしたがって清書しなさい。ただし、一段落で書くこと。

私は、吹奏楽部に入っています。担当はパーカッションです。最近、父に「がんばっているね。」とほめられました。



ポイント　句点。や読点、かぎかっこ「」は、原則として一マスに一つずつ入れる。っ・ョなども一マスに一字で書くことに注意する。

2　主語・述語の対応　次の――線の言葉を、主語と正しく対応するように直しなさい。

① 兄はいったん捕ったボールをぼとりと落ちた。
② 私の夢は、大人になったら、世界平和に貢献（こうけん）する仕事に就く。
③ 母は、弟に命じて、一人で部屋の片づけをした。
④ 大切なのは、どんなに困難な状況でも、決してあきらめない。

① ［　　］
② ［　　］
③ ［　　］
④ ［　　］

ポイント　まず主語を見つける。主語は「……は」「……が」で示されていることが多い。

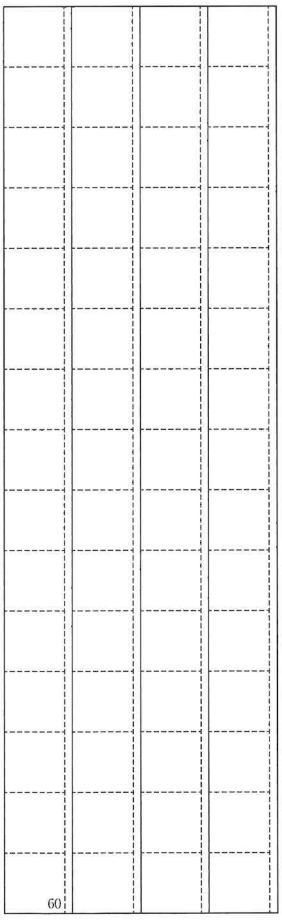
3　作文　ある中学校のサッカー部では、三年生が引退し、一・二年生によるチームづくりがスタートしました。そこで、二年生の中から新チームのキャプテンを決めることになりましたが、どのような方法で決めるかについて、意見が次のア・イに分かれています。

ア　一年生も含めた部員全員が、キャプテンにふさわしいと思う人の名前を書いて投票して決める。

イ　二年生の部員が全員で話し合って、キャプテンにふさわしい人を選ぶ。

あなたは、どちらの方法で決めるのがよいと思いますか。あなたの考えを書きなさい。ただし、次の①～④にしたがうこと。

① 題名や氏名は書かないこと。
② ア・イのどちらかの方法を選び、選んだ理由を明らかにして書くこと。
③ 書き出しは一字下げること。
④ 六十字以内で書くこと。



ポイント　「意見発表型」の作文である。二つの方法を比較すると、それぞれの方法の違いが見えてくる。その違いから長所や短所を考えて、どちらがよいかを選ぶ。必ずどちらかの方法を選び、「私はアの方法がよいと思います。」「私はイを選びます。」というように、選んだものがはっきりとわかるように書く。「意見発表型」の作文では、条件等での指定が特にない限り、初めに結論（自分の意見・立場など）を書くと、端的にまとめることができる。

演習問題

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

先日、電車に乗ったときのことである。夕方のラッシュアワーにはまだ早かったが、それでも車内は混んでいた。座席は完全に埋まっており、立っている人もかなりいた。

そんな電車に、途中の駅で、一人のお年寄りが乗ってきた。買い物をした帰りなのだろうか、手に大きな紙袋を二つも提げていた。足もとがおぼつかないというほどのこともないが、荷物がいかにも重そうで、疲れた様子だった。

あいにく、優先席は埋まっていた。もとより混んでいる車内なので、そのお年寄りは、普通の座席の前に立った。

ところが、お年寄りの目の前に座っていた乗客たちは、誰も席を譲ろうとしない。お年寄りの姿を見て見ぬふりをしているのか、それとも本当に目に入っていないのか——座っていた七人のうち、五人はスマートフォンの画面に見入っていた。他の二人も、立ち上がる気配はなかった。

この光景を見ていて考えた。この座席に座っている人たちは、ここが「優先席」ではないから、座席を譲る必要がないと思っているのではないか。だから、目の前に誰が立とうが、全く気にしないのではないかと。

そこで、私は提案したい。電車やバスの座席を、「全て」優先席にしてはどうだろう。そうすれば、座席を必要としている人に、譲らなければならないという意識が芽生えるはずだ。そして、目の前に立つ人に、少しでも注意を払うはずだ。座席を必要としている人は、お年寄りだけではない。足の不自由な人、けがをしている人、妊娠(にんしん)中の人、急に体調が悪くなった人。そういった人が一人でも多く座れるように、「全席優先席」にするのがよいと思う。

この文章で筆者が提案していることについて、あなたの考えを書きなさい。ただし、次の①～④にしたがうこと。

① 題名や氏名は書かないこと。

② 筆者が提案していることについて、賛成か反対か、あなたの立場を明らかにすること。また、その立場をとる理由を書くこと。

③ 書き出しは一字下げること。

④ 文章は八十字以内で書くこと。

80

ポイント

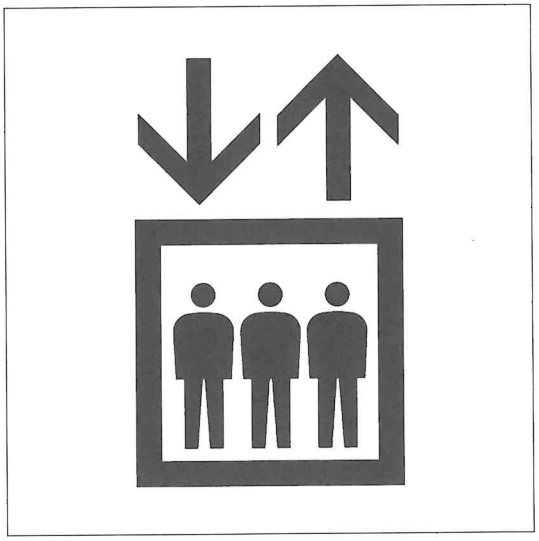
「課題文読み取り型」の作文である。

問題に取り組む手順

- 文章中から筆者の提案を読み取る。
- 筆者の提案に「賛成」か「反対」か、自分の立場をはっきりさせる。
- 「賛成」または「反対」の理由を考える。

※「あなたの考えを書きなさい」という設問である。理由を書くときに、文章の要約文にならないように注意する。

2　駅や商店、公共施設などには、案内用の図記号が使われていることがあります。例えば、次の図記号は「エレベーター」と「階段」を表します。





このような図記号には、どのような利点があると思いますか。また、このような図記号を実際に使用する場合、どのようなことに留意する必要があると思いますか。あなたの考えを書きなさい。ただし、次の①～③にしたがうこと。

① 題名や氏名は書かないこと。
② 図記号を使うことの利点と、使うときに留意する点を書くこと。
③ 原稿用紙の使い方にしたがって、五行以上六行以内で書くこと。

ポイント
「資料活用型」の作文である。
「利点」と「留意点」を聞かれているので、図記号の特徴を押さえ、それが使用されている場面を具体的に思い浮かべて考える。

実戦問題

1 文化庁が行った「平成二十六年度　国語に関する世論調査」によると、「文字を手書きする習慣をこれからの時代も大切にすべきであると思うか」という質問に対して、調査対象の約92％が「大切にすべきであると思う」と答えています。

そこで、ある中学校で、国語の時間に「手書きの習慣をこれからの時代も大切にすべき理由」という題で、意見文を書くことになりました。

次の①～③に従って文章を書きなさい。

① 題名を書かないこと。

② 二段落構成とし、第一段落では、「手書き」の具体例を書き、第二段落では、その具体例をふまえて、自分の意見を書くこと。

③ 百五十字以上、二百字以内で書くこと。

〈青森〉

150

200

ポイント

「テーマ型」の作文である。

意見文を書く場合には、どのような立場で書くかを確かめる。

テーマに対する賛成の立場で書くのか、または自由に意見を述べてよいのかなど、設問文と条件で確かめる。

段落構成が指定されていることにも注意する。

今回の問題は、テーマの幅が広いので、「手書き」の具体例が身近にないか考える。

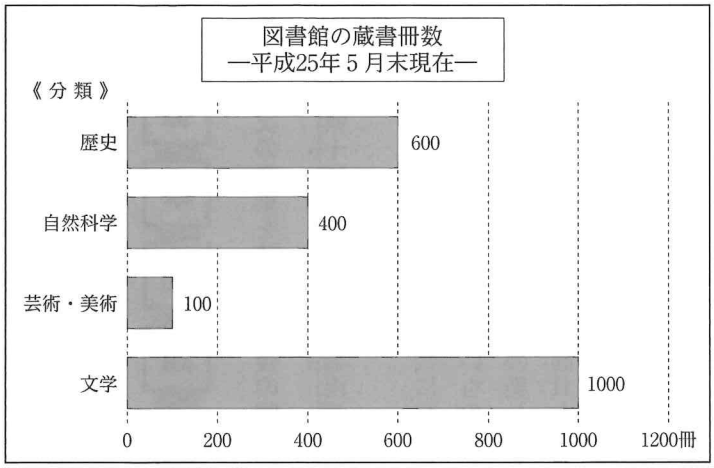
2　左の二つのグラフは、A中学校の「図書館の蔵書冊数」と「図書館の貸出冊数」を表しています。今後、A中学校ではグラフの四つの分類のうち、どの分類の図書を購入するのがよいと思いますか。あなたの考えを書きなさい。段落構成は二段落構成とし、第一段落ではあなたの考えを、第二段落ではそのように考えた理由を二つのグラフを根拠に書きなさい。ただし、次の〈注意〉に従うこと。

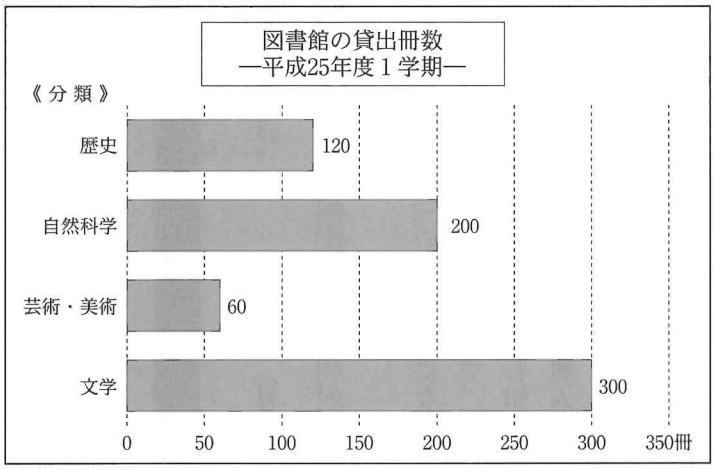
〈注意〉　①　題名や氏名は書かないこと。
②　書き出しや段落の初めは一字下げること。
③　文章は、六行以上八行以内で、縦書きで書くこと。
④　数字を使う場合は、漢数字で書くこと。

例

千							
六	十						
二	十	五					
百	二	十					

〈岐阜〉





ポイント

「資料活用型」の作文である。
それぞれのグラフが何を表しているかを押さえ、グラフから読み取ったことを根拠に考えをまとめる力が必要である。
段落構成が指定されていることにも注意する。

8　6